

寄稿

千賀の塩竈は今

——宗家の仙台公演に寄せて

本屋禎子

2010年10月2日に、仙台市の日蓮宗孝勝寺において、宗家の金春安明師をお迎えして桜井八右衛門安澄師追善法会が行われました。これは、仙台市能楽振興協会の主催によるもので、桜井八右衛門が金春流に入門して四百年の節目の年にあたるこの年に、現代に繋がる能文化の先駆者としての遺徳を偲ぶために開かれたものです。

桜井八右衛門は、1669年10月16日73歳で逝去し、仙台榴岡の孝勝寺に埋葬されています。お寺の好意でこれを機にお墓も整備されたのですが、せっかく整備されたそのお墓も今回の地震で倒れてしまいました。仙台では、能楽愛好者が戦後早くから相互の交流と市民への普及のための交流組織を作って活動を続けてきました。シテ方五流、囃子方、狂言方の愛好者が集まる仙台市における能楽のセンター的役割をはたしてきました。

2011年3月11日の東日本大震災では、津波による未曾有の犠牲者と被害をもたらしました。さらに福島第一原子力発電所の事故によりこの地が汚染され、多くの避難者を生み出しました。大地の怒りが爆発したのだ、と私には思われませんでした。3・11以降の仙台・被災地はいまだにそのまま、未曾有の建設ラッシュ（東京など他地域資本の）というアンバ

ランス、放射能汚染問題が深刻で宮城県でも次々と内部被曝など汚染問題が起こっています。

このような折、本年11月17日と12月1日に「第31回市民能楽講座」が開かれることになりました。11月17日は金春憲和師によるトークと体験講座、12月1日は金春安明師の能『融』が上演されます。この時期に、宗家二代をお迎えして、能の企画が行われることは仙台市民にとって得難いことだと思われまふ。宗家に演目をお伺いしましたところ、即座に『融』にとおっしゃって頂きました。陸奥ゆかりの曲であり、今回の大地震による犠牲者への鎮魂の意味があります。

千賀の塩竈は塩竈神社の海辺にあり、歌に詠まれた地です。仙台駅からも近く、また少し足を伸ばせば松島もすぐです。今では住宅地が広がっていますが、昔の面影を残しています。今回の津波は塩竈神社のすぐ下まで来ましたが、付近の海岸は深刻な被害を受けました。融の大臣も大いに案じていることでしょう。

「融」のキリでは、「あら名残惜しの面影や、名残惜しの面影」と謡われます。大震災の犠牲者たちへの鎮魂の想いを宗家の能を鑑賞しながら静かに各自が自分ならこの難局をどう乗り切るか、犠牲者に思いをはせ、生かされた私たちにできることを考えているものです。それがこの時代を共に生き、能を大切にして生きている私たちにできる最良の方法ではないでしょうか。まずは仙台に来て下さい。

2012年12月1日 第31回市民能楽講座

能「融」 仕手金春安明、狂言「伯母ヶ酒」 大藏千太郎

2012年11月17日 トークと体験講座 金春憲和が誘う能の世界